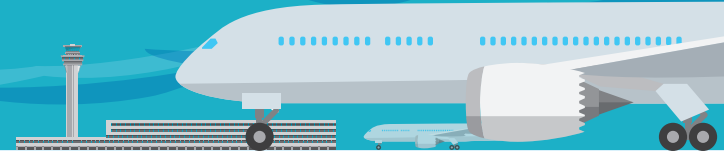


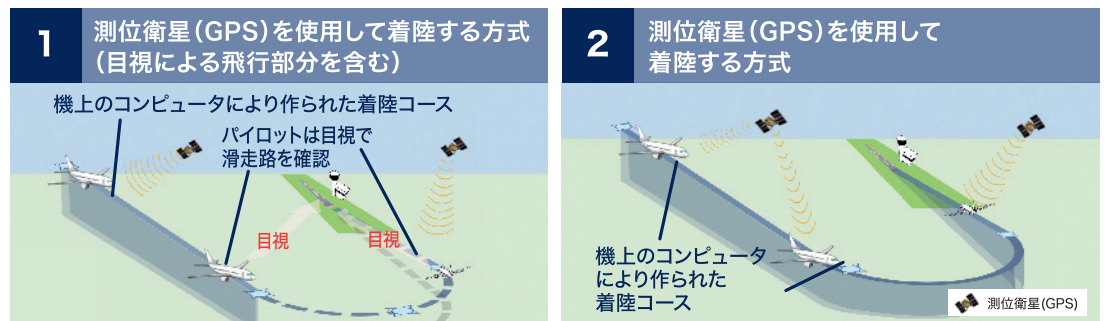
## 羽田空港の最新情報を国土交通省よりお知らせします

日頃より、羽田空港の機能強化に伴う、新飛行経路の運用にご協力いただきありがとうございます。  
このチラシでは、地域の皆さまのご意見・ご要望を踏まえて立ち上げた固定化回避検討会に関する取組状況や、  
2021年夏ダイヤの運用実績を基にした騒音の状況などをお知らせします。  
今後も引き続き、ホームページやニュースレターなども活用し、丁寧でわかりやすい情報提供を行ってまいります。



## 「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」 に関する具体的な取組を進めています。

新飛行経路の固定化回避に向け  
選定された2つの飛行方式\*の  
羽田空港への導入のため、**飛行  
方式の具体的な安全性の評価  
などの取組を進めています。**



※第4回「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」(2021年8月25日)にて選定された飛行方式。

### 導入に向けて 必要な 主な取組

- 安全性の評価
- 基準\*の策定
- 騒音軽減効果の検証
- 飛行方式に対応する機材導入や乗員の確保促進

\*飛行経路設定に必要な基準、運用ルールなど



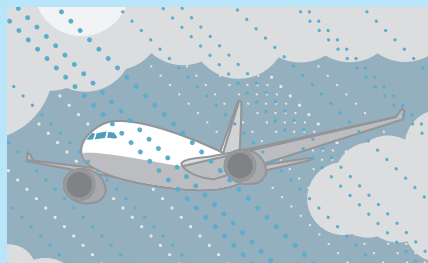
## 安全性評価の主な具体的取組

### 〈コンピューターによる分析〉

2021年から、どのような気象条件や飛行条件で、大型機や小型機などの多様な航空機が新しい飛行方式により飛行可能かについて、コンピューターを用いた分析を進めています。



雲が多く視界不良時の飛行



雨風の中での飛行

### 〈シミュレーターによる検証〉

2022年からは、パイロットが訓練に用いるシミュレーターを用いて、コンピューターによる分析で飛行可能とされた厳しい条件(視界の状況や強風など)の下においても、安全性に問題なく飛行できるかを、徹底的に検証しています。



シミュレーターによる検証の様子(イメージ)

【引き続き多様な観点から安全性の検証を行います。】



# 羽田空港のこれから

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



「羽田空港のこれから」では、新飛行経路や騒音・落下物対策、運用状況、よくある質問への回答などを公開しています。

新飛行経路に関して、以下の情報を2か月ごと(※項目は概ね半年ごと)に公表しています。

騒音対策	各騒音測定局の騒音測定結果 騒音測定結果の速報版については、毎月公表しています。
	全体の騒音分析※
	就航機材割合※
落下物・安全対策	部品欠落件数及び欠落部品内容
	落下物防止対策基準の拡充(拡充する場合)※
	駐機中の機体チェック件数・ランプインスペクション(外国航空機への立入検査)実施状況※

運用実績	新飛行経路の運用実績・運航便数
	北風・南風の運用割合
	航跡図
	ゴーアラウンド(着陸のやり直し)発生状況※

その他	新飛行経路に関する問い合わせ状況
-----	------------------

## トピックス

### 1 飛行機の種類により、地上からの見え方が異なる場合があります。

「いつもより低い高度を飛んでいた」等のお問い合わせをいただくことがあります。同じ航路、高度を飛行していても機体の大きさの違いによって、いつもより低く飛んでいるように見える場合があります。航空機の機種、飛行高度、航跡などについては、「羽田空港飛行コースホームページ」にて、アクセス日の前日から1ヵ月前までの記録をご確認いただけます。



●機材の全長、全幅は航空機メーカーの公表資料による。高度は羽田空港飛行コースホームページによる。

### 2 羽田空港は世界で高い評価を受けています。

英国のSKYTRAX社が毎年発表している空港評価ランキングである「World Airport Awards 2021※」において、羽田空港は「World's Best Airports」(世界の空港の総合評価)で3年連続第2位を獲得しました。清潔さなどの部門で高い評価を得ており、今後も引き続き、便利で魅力ある空港を目指していきます。

※世界の航空格付け会社であるSKYTRAX(1989年英国にて設立)が、毎年様々な部門における空港評価ランキングを発表している。

SKYTRAX Ranking (2021)							
総合評価ランキング (TOP5) World's Best Airports				主な部門別ランキング (TOP5)			
順位	空港(所在地)	順位	清潔さ	スタッフサービス	ユニバーサルデザイン	順位	ユニバーサルデザイン
1	ハマド(カタール)	1	羽田	チャンギ	羽田	1	羽田
2	羽田(日本)	2	チャンギ	羽田	関西	2	関西
3	チャンギ(シンガポール)	3	成田	仁川	成田	3	成田
4	仁川(韓国)	4	ハマド	関西	中部	4	中部
5	成田(日本)	5	仁川	成田	チャンギ	5	チャンギ

引き続き、騒音対策・落下物対策に取り組むとともに、地域の皆さまへ丁寧でわかりやすい情報提供を行ってまいります。

このチラシの内容や、航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

**Tel: 0570-001-596**

ナビダイヤルに接続できない方は **050-3655-5960**  
受付時間7:00~20:00[土・日・祝含む]

最新の運用報告は、ホームページからご確認ください。

羽田空港のこれから **検索**

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>



そのほか『羽田空港のこれから』ご意見カードを区役所等にご用意し、皆さまからのご意見を承っております。

# ホームページでリアルタイムの運用状況を確認できます。

港区上空を飛行する新飛行経路は、羽田空港周辺が南風の場合の15時～19時のうち3時間程度に限り運用されます(南風運用は年間約4割であり、冬場も1割程度運用されています※)。

※2020年度実績

## 「羽田空港飛行コースホームページ」

<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>

航空機の航跡・飛行高度・機種と各騒音測定局における測定値についても、アクセス日の前日から1ヶ月前までの記録をご確認いただけます。



トップページにリアルタイムの運用状況が表示されています

# 騒音測定を常時実施しています。

騒音測定の結果は、「羽田空港飛行コースホームページ」や「羽田空港のこれから」にてご確認いただけます。

### ● 港区内における2021年夏ダイヤ(4月～10月)の騒音測定結果

測定局	機体サイズ	2021年4月～10月の実測値の平均 (dB)	推計平均値 (dB)
港区立高輪台小学校 (C着陸)	大型機	72.8	76～73
	中型機	73.6	74～69
	小型機	71.9	73～68

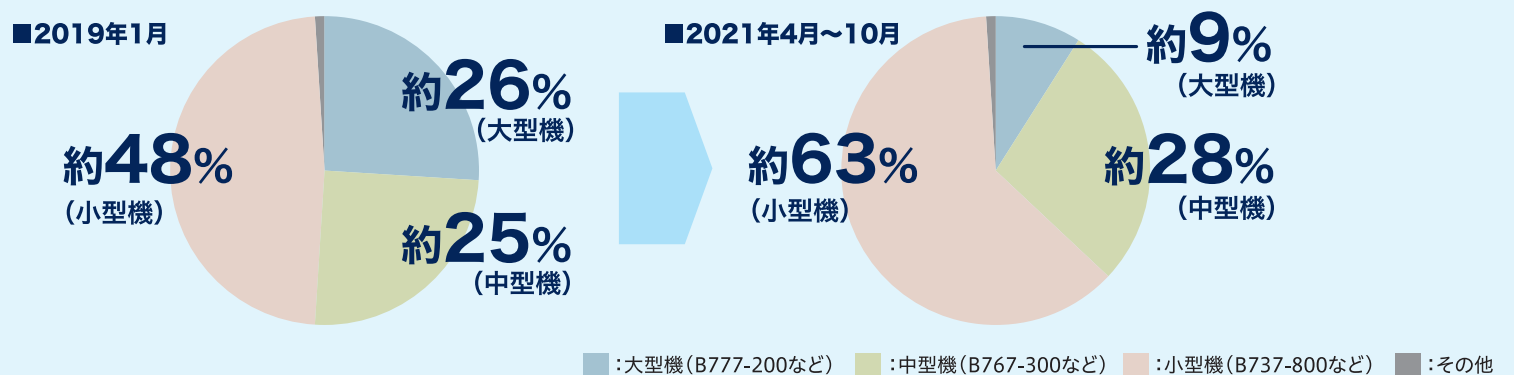
□ : 実測値の平均が推計平均値と同等

※推計平均値とは、事前のシミュレーションにより推計した騒音の平均であり住民説明会などでお示していた値。

### ● 新飛行経路と1時間当たりの運航予定便数



### ● 大手国内航空会社による、騒音の比較的大きな大型機(B777)の退役などにより、騒音影響が比較的小さい中型機・小型機の就航割合が増えています。



### ● 新飛行経路の運用にあたっては、様々な騒音対策に取り組んでおります。

**騒音対策**

新飛行経路の運用時間を限定

着陸料の料金体系に騒音の要素を追加

着陸時の高度引き上げ

着陸前の飛行高度を上げるため着陸地点を移設

着陸時の降下角の引き上げ

西向きに離陸する航空機の制限

条件を満たす施設(病院、小規模保育施設など)への防音工事の助成

騒音測定局の設置と結果の公開










# 新飛行経路の運用にあたっては、 様々な落下物対策に取り組み、 未然防止を徹底しております。

新飛行経路において確認された**落下物は0件**※1です。部品欠落※2については、航空会社等と協力して原因分析・再発防止に取り組んでいます。

※1 2021年12月時点

※2 到着後の点検において航空機の部品がなくなっていることが確認されたもの

**落下物対策**

 落下物防止対策の義務化	 駐機中の機体を抜きうちでチェック	 落下物による被害者に対する補償等を充実
 落下物の原因分析を強化	 落下物の原因者である航空会社への処分等の実施	
 全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集	 航空会社の部品欠落の報告制度を充実	

# パイロットとの意見交換で、 安全な運用を確認しています。

実際に運航したパイロットからは下記のような意見がありました。

- 安全上問題なく運航できている
- 南西強風時には従来経路を使用するなど、気象状況を考慮した対応が必要

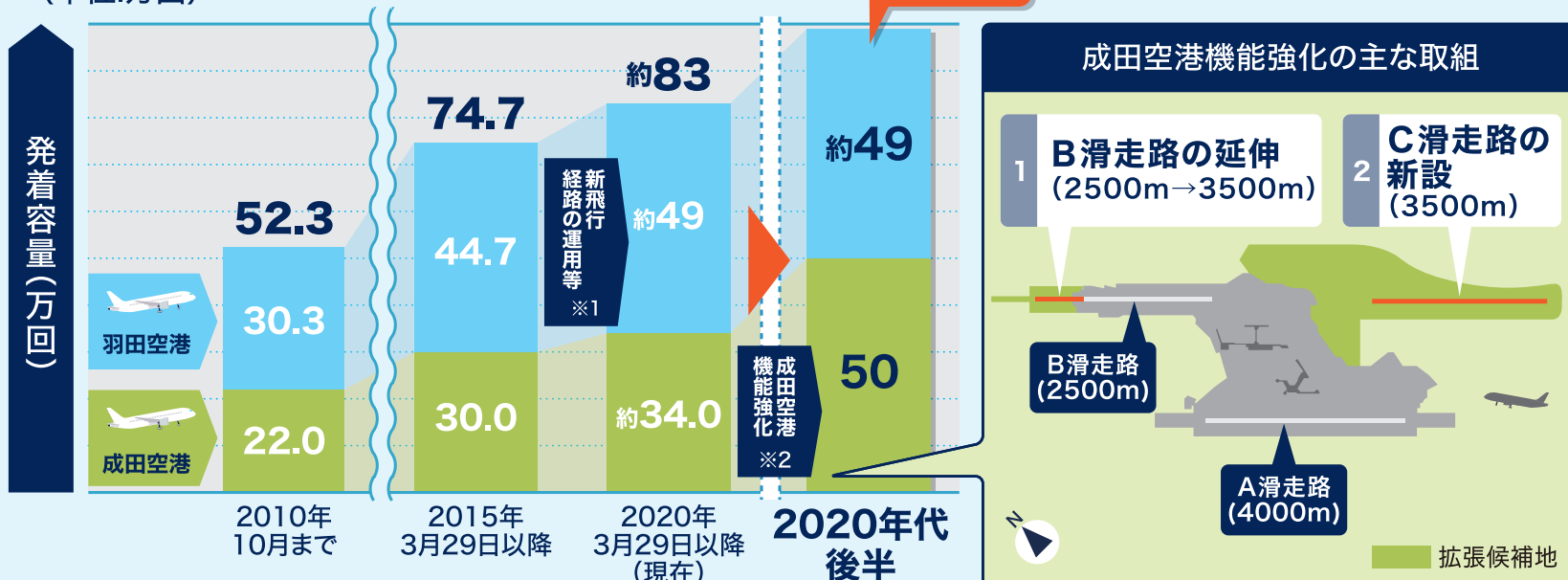


新飛行経路については、パイロットの意見などを踏まえ、安全に運航できるよう、その運用開始時より、南西強風時に従来経路を運用する場合もあるなど、状況に応じた運用を行っています。引き続き、パイロットとの意見交換を行い、安全運航に役立てていきます。

# 羽田・成田の機能強化を進めています。

我が国の国際競争力の強化などの観点から、羽田・成田の両空港について、共に機能強化を進めていくことが必要です。両空港の機能強化により、2020年代後半までに**首都圏空港の年間発着容量約100万回の実現**を目指します。

●首都圏空港(羽田空港・成田空港)の年間発着容量の推移 (単位:万回)



※1 羽田空港の新飛行経路の運用等により国際線の年間発着容量を約4万回増加

※2 成田空港のB滑走路の延伸、C滑走路新設等により年間発着容量を約16万回増加